

令和5年度の評価・検証（概要）

資料2-1

I 令和5年度調査結果

(I) 取組状況調査

ア 関係課（26課）

令和5年度における取組（取組数:170）の進捗を4段階で評価 《調査時期：12月》

S：計画より進んでいる	A：計画どおり	B：遅れている	C：未実施	—：年度内算定不可
8（8）	146（145）	10（14）	0（0）	6（6）

※（ ）内はR4実績

- ・「計画より進んでいる」「計画どおり進んでいる」と評価した取組は154で、昨年度より1増加。
- ・「遅れている」と評価した取組のうち、多くは学校を対象とした講座において年度の目標校数を達成できなかったことによるもの。学校のニーズに合わせた申込方法や講座内容の見直しを図っていく。

イ 学校（市立小中学校144校）

各施策の取組（取組数:99）から、令和5年度に学校として取り組んだ項目を選択 《調査時期：10月》

- ・61の取組で令和4年度と比較して数値が上昇。特に、家庭や地域との連携・協働やいじめへの組織的な対応の取組で数値が上昇

(2) 実態把握調査

ア 調査対象

- 【教職員】 校長、教頭、主幹教諭
 授業担当教諭・任期付職員・臨時的任用職員
 再任用職員(フルタイム) 3,274名(96.2%)
- 【児童生徒】 グループ2の児童生徒 5,982人(89.4%)
- 【保護者】 対象児童生徒の保護者 3,599人(53.8%)
- 【地域住民】 グループ2の地域住民 462人
 (学校運営協議会委員/学校評議員)

年度		R2	R3	R4	R5	R6
調査方法		抽出	抽出	全校	抽出	抽出
児童	グループ1 (48校)	小4	小5	小6		
	グループ2 (48校)			小4	小5	小6
生徒	グループ1 (24校)	中1	中2	中3		
	グループ2 (24校)			中1	中2	中3

イ 成果指標の達成状況 (詳細は資料2-2)

- ・26項目の成果指標のうち、8項目で目標値を達成 (昨年度より1減)
- ・昨年度より数値が上昇した指標が6項目 (昨年度より5減)

2 各政策・施策の評価・検証

◇政策1 自分らしさを大切にする子供を育てます

対象	設問数	肯定的回答割合	
		前年度比増	7割以上
教職員	7	2	7
児童生徒	6	0	5
保護者	2	2	0
地域住民	1	1	1

※○:成果、▲:課題

○家庭や地域と連携・協働の推進

- 全国学力・学習状況調査(調査対象:小6、中3)で「将来の夢や目標を持っているか」「自分にはよいところがあると思うか」の項目で、全国平均より小学校は約5Pt、中学校は約2Pt上回った
- 保護者のキャリア教育に対する理解が徐々に進んでいる
- 全市的なCS導入が進んだことで、各校が学校運営協議会で情報を共有し、学校運営を進めている

○キャリア・パスポートの活用

- 小中ともに約9割の学校がキャリア・パスポート活用に取り組み、教職員の約8割が活用について肯定的な回答
- 学年の進行とともに、キャリア・パスポートを保護者と共有して活用している

▲学校のキャリア教育推進体制

▲子供の实態や発達段階に応じた、キャリア教育で育てたい力を子供が自覚することができる手立ての工夫

◇政策2 夢と希望を持ち続ける子供を育てます

対象	設問数	肯定的回答割合	
		前年度比増	7割以上
教員	2	1	2
児童生徒	3	1	1
保護者	2	0	1

○地域住民・地元企業と連携した体験活動の実施

- 学校では、新型コロナウイルスの5類移行を踏まえ、積極的に地域住民や地元企業と連携した体験活動などを実施

○児童生徒の郷土愛

- 教職員は、地域の魅力を発見する機会や、地域の将来を考える機会を設ける機会の設定に関する数値が昨年度よりわずかに上昇。令和2年度との比較では約2～4Pt上昇
- 「自分が住んでいるまち(地域)は好きである」の設問に9割以上の児童生徒が肯定的な回答。地域行事への参加に関する設問で、小学校約3Pt上昇、中学校2Pt低下
- 新型コロナウイルスの5類移行を踏まえた地域行事の増加や、学校での教育活動における地域との関わりなどによって、地域に愛着をもった児童生徒が育まれている

▲「やらまいか精神」の醸成

- 教職員、保護者ともに、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦できるよう認め励ましている(支援している)」の肯定的回答は継続して9割を超えているが、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」と回答する子供は減少傾向

◇政策3 これからの時代を生き抜くための 資質・能力を育む子供を育てます

対象	設問数	肯定的回答割合	
		前年度比増	7割以上
教員	20	6	18
児童生徒	20	6	14
保護者	14	5	11
地域住民	1	1	1

○決めたことを最後までやり遂げる力の定着

- 教員と保護者による子供への継続的な支援・声掛けにより、子供たちに最後まで粘り強く取り組む姿勢と物事をやり遂げる力が身に付いてきている

○外国語指導助手(A L T)との連携、校種に応じた外国語教育の充実

- 学校がA L Tと連携した授業構想の工夫や外国人との交流・外国の文化に触れる機会の設定、指導力向上を目指した校内研修等に積極的に取り組み、成果指標を達成

○情報モラル教育の浸透

- インターネットやゲームをするときのルールやマナーを守ることができていると回答した児童生徒は昨年度から引き続き9割以上

○いじめに対する組織的な対応

- 学校のいじめに対する組織的な対応を促す取組において、全ての項目で数値が上昇

▲学習習慣の確立、▲タブレット型端末を活用した授業の実施

▲子供が相談しやすい雰囲気醸成

◇政策4 一人一人の可能性を引き出し伸ばします

対象	設問数	肯定的回答割合	
		前年度比増	7割以上
教員	1	1	1

○個性を伸長する機会の充実

- 「浜松I-Tキッズプロジェクト」による特別課外講座を実施
- 小学校、幼稚園へパラスポーツを含めたトップアスリートを派遣し、スポーツ教室等を実施

○教育相談支援体制の充実

- スクールカウンセラー61人、スクールソーシャルワーカー15人を配置し、深刻化・複雑化している子供や保護者の相談に対応

○不登校児童生徒への支援充実

- 校内まなびの教室を希望する児童生徒の増加に対応するため、5か所増設し、市内45か所に拡充

○障がいのある子供への支援充実

- 発達支援学級を小学校280学級(前年比9学級増)、中学校140学級(前年比7学級増)設置、小学校5校に発達支援教室を新設
- 発達支援教室支援員を小学校75人(前年比5人増)、中学校37人(昨年度同様)配置
- スクールヘルパーを小学校107人(前年比1人増)、中学校40人(前年比2人増)配置

○日本語能力に応じた支援の充実

- 日本の学校へ初めて就学する児童生徒への初期適応指導者の派遣を実施、初期日本語指導拠点校(2校目開設)を準備中

▲多様な手段による学びの保障の充実

◇政策5 園・学校や教職員の力を向上させます

対象	設問数	肯定的回答割合	
		前年度比増	7割以上
教員	5	2	5
児童生徒	2	0	2
保護者	1	1	1

○新たな教員育成指標の周知・活用

- 今年度から新たな育成指標に基づく研修制度がスタートすることに伴い、各研修においてキャリア段階に応じた資質能力の明確化に努めた
- 8割を超える教職員がキャリア段階に応じて求められる資質・能力を知っていると回答。学校において、指導助言や研修奨励の際に育成指標が活用されている実態がうかがえる

○子供・保護者との信頼関係の構築

- 保護者の「学校や子供に関することを教職員に気軽に相談できるか」の項目は、昨年度に引き続き成果指標を達成
- 教員が子供のよい表れや日々の変化に気を配り、子供に積極的に声掛けをしたり、保護者と子供の状況を共有したりすることによって、よりよい信頼関係が構築されている

▲校内での研修内容の共有

- 校内での研修内容の共有の数値は令和4年度に数値が減少し、今年度も横ばい

◇政策6 子供の生活や学びを支える
教育環境づくりを進めます

対象	設問数	肯定的回答割合	
		前年度比増	7割以上
教員	2	2	2
保護者	1	1	1
地域住民	1	0	1

○学校施設の計画的な保全

- 学校の基幹設備である自動火災報知設備、非常放送設備、給水・消火栓ポンプ、管理諸室・給食室空調設備の更新を「浜松市学校施設長寿命化計画」に基づき84校で実施

○学びを支える人材の充実

- 校務アシスタント、図書館補助員を小中学校全校に、理科支援員を小学校全校に配置
- 児童生徒数の変動や学校の運営状況等を考慮し、99人（前年比2名増）の学習支援員や複式学級支援員・生徒指導支援員を配置

○少人数指導の充実（はままつ式30人学級編制）

- 「はままつ式30人学級編制」を7校（8学級増）で実施、該当校に常勤または非常勤の教員を配置

○地域事情による通学等の支援

- 遠距離通学となる地域の通学支援として、通園・通学バスを50路線運行。通園・通学バス以外を利用する児童生徒90人に交通費を支給

▲学校における働き方改革の推進

- 教職員の高ストレス者の割合が増加傾向

◇政策7 家庭や地域の力を生かした取組を推進します

対象	設問数	肯定的回答割合	
		前年度比増	7割以上
教員	5	5	4
児童生徒	3	0	3
保護者	7	3	4
地域住民	5	2	5

○コミュニティ・スクール（CS）の導入効果

- 新たに10校が学校運営協議会を設置、全体の導入校は140校（導入率97.2%）
- 教職員・学校運営協議会委員・学校支援コーディネーター・CSディレクター等、関係者を対象とした研修会によって、制度理解と共通認識が深まり、学校のニーズに応じた学校支援活動が展開され、教育活動の充実につながっている
- 学校運営協議会での議論に基づく具体的な支援が実施されることで、徐々に負担軽減や子供と向き合う時間の確保につながっていると認識する教職員が増えている

▲保護者へのコミュニティ・スクール（CS）周知・浸透

- 保護者のCSの定義の理解に関する項目において、4Pt上昇してはいるものの、肯定的回答は約4割と他の項目と比較して未だ低い状況

▲子供の成長を促進するための家庭の教育力向上

- 家庭の教育力向上のための保護者への働きかけ

◇重点施策の分析（静岡大学 村井准教授の分析資料から抜粋）

- ・ **経年比較**…成果指標の達成状況について、「グループ2の小4・中1《同一集団》との比較(以下「R4との比較」と表記)」「グループ1の小5・中2《同一学年》との比較(以下「R3との比較」と表記)」を実施。
- ・ **成果指標の達成校と未達成校の比較**…達成校と未達成校で有意な差（5%水準）が生じている設問を、成果指標を達成した学校の特徴と捉える。

施策1-1 自分らしい生き方の実現のための教育（キャリア教育の推進）

《成果指標》

- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| ①将来の夢を持っている子供の割合 <u>90%</u> | 【達成】小：17/48校、中：0/24校 |
| ②自分にはよいところがあると思う子供の割合 <u>85%</u> | 【達成】小：9/48校、中：0/24校 |
| ③自分のよいところを生きながら活動している子供の割合 <u>80%</u> | 【達成】小：17/48校、中：1/24校 |

経年比較	達成校と未達成校の比較（達成校の特徴）
<p>どの成果指標においても、学年が上がるにつれて肯定群の割合が小さくなる傾向が見られる。</p> <p>R3との比較では、成果指標①は肯定群の割合が小さくなっているが、成果指標②、③は、ほぼ同等の値である。</p>	<p>成果指標の達成校の児童は、他の設問においてもよい表れがみられる。</p> <p>児童が自身の良さに気づき、自分のよさを生かすには、友達、教員、家族、地域の存在も重要になっている可能性が考えられる。</p> <p>成果指標③の達成校の生徒は、失敗を恐れずに挑戦している。</p> <p>成果指標②の達成校の教員は、子供が地域の魅力を発見する、または、地域の将来を考える機会を設けること、自校のキャリア教育で育てたい力を子供が自覚することができる手立てを工夫していることがうかがえる。</p> <p>保護者は、キャリア・パスポートを通して子供を理解していることがうかがえる。また、成果指標②、③の達成小学校の保護者は、地域の行事や活動への参加をうながしている。</p> <p>⇒教員や保護者で差の見られた項目は、成果指標を達成する上で鍵になると考えられる。</p>

施策3-1 確かな学力の育成

《成果指標》

④自分で計画を立てて勉強している子供の割合 75%

【達成】小：10/48校、中：0/24校

⑤自分で決めたことは最後までやり遂げるようにしている子供の割合 90%

【達成】小：14/48校、中：3/24校

経年比較	達成校と未達成校の比較（達成校の特徴）
<p>学習の自己調整にもかかわる成果指標④は、R4との比較、R3との比較ともに肯定群の割合が小さくなっている。</p> <p>成果指標⑤は、R4との比較で小中学校ともにわずかに肯定群の割合が大きくなっている。</p> <p>R3との比較では、小学校は肯定群の割合が大きくなったが、中学校は肯定群の割合が小さくなっている。</p>	<p>成果指標の達成校の児童は、他の項目においてよい表れがみられる。</p> <p>成果指標④の達成校の児童は、キャリア教育の意義を認識していることがうかがえる。また、インターネットやゲームをするときのルールが守れている。他の学習に関する項目でも優れた表れがみられ、めあてを持って学習に取り組んでいる様子が見られる。</p> <p>成果指標⑤の達成校の児童生徒は、キャリア教育の意義を認識していることがうかがえる。また、地域の行事参加も多くみられ、地域が自分が決めたことを最後までやりとげる場になっている可能性も考えられる。</p> <p>成果指標④の達成校の教員は、自校のキャリア教育で育てたい力を子供が自覚することができる手立てを工夫している。</p> <p>成果指標⑤の達成小学校の教員は、子供が地域の魅力を発見する、または、地域の将来を考える機会を設けている。</p> <p>成果指標の達成校の保護者は、キャリア・パスポートを通して子供の理解を深めている。また成果指標⑤の達成校の保護者は、地域の行事や活動への参加をうながしている。</p> <p>⇒キャリア教育が成果指標④の達成に、地域に関する学習や地域の行事や活動への参加をうながすことが、成果指標⑤の達成につながっている可能性が考えられる。</p>

施策3-3 情報社会を生きる能力の育成（教育の情報化の推進）

《成果指標》

- ⑥自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができる子供の割合 70%
 【達成】小：37/48校、中：21/24校
- ⑦インターネットやゲームをするときの（情報をやりとりするときの）ルールやマナーを守ることができる子供の割合 100%
 【達成】小：6/48校、中：3/24校

経年比較	達成校と未達成校の比較（達成校の特徴）
<p>成果指標⑥は、小中学校ともに成果指標を達成している。 小学校はR4との比較・R3との比較ともに肯定群の割合が大きくなっている。 中学校はこれまでとほぼ同等の割合を維持している。</p> <p>成果指標⑦は、小中学校ともにこれまでとほぼ同等の割合を維持している。</p> <p>成果指標⑥⑦ともに、「当てはまる」の割合が最も大きくなっている。</p>	<p>成果指標⑥の達成校の児童生徒は、物事への挑戦や学習の調整、対話的な学習においてもよい表れがみられ、学習を次に生かし、活用しようとしている側面もみられる。</p> <p>成果指標⑦の達成校の児童は、自分で決めた時間に勉強することもできている。</p> <p>成果指標⑥の達成小学校の教員は、情報モラルを指導している。</p> <p>成果指標⑦の達成中学校の教員は、インターネットやゲームをするときのルールやマナーについて、日常的に子供に指導していることがうかがえる。</p> <p>成果指標⑦の達成校の保護者は、学校のキャリア教育について理解していることがうかがえ、また、地域に関する項目でも肯定群の割合が大きい。</p> <p>⇒教員による情報モラルやインターネットやゲームをするときのルールやマナーの指導が、成果指標を達成するうえ重要になると考えられる。また、ルールやマナーを守ることについては、家庭だけではなく地域とのつながりも重要な要素になっている可能性が考えられる。</p>

施策7-2 地域との連携・協働の推進（コミュニティ・スクールの推進）

《成果指標》

- ⑧学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思う地域住民の割合 95%
 【達成】小：23/48校、中：14/24校
- ⑨ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わる人が多いと思う地域住民の割合 80%
 【達成】小：46/48校、中：13/24校

経年比較	達成校と未達成校の比較（達成校の特徴）
<p>成果指標⑧について、小学校はR4から成果指標に達する水準を維持している。中学校は成果指標には達していないが、年々肯定群の割合が大きくなっている。</p> <p>成果指標⑨は、小中学校ともに成果指標を達成している。</p>	<p>成果指標⑨の達成校の児童生徒は、地域の行事に参加している割合が大きく、達成校の児童においては、地域の方が学習に関わってくれているという実感を伴っていた。</p> <p>成果指標⑧の達成小学校の教員は、地域の人材を活用する授業を行おうとしていることがうかがえる。</p> <p>成果指標⑧の達成中学校の教員は、地域に関する教育を重視していることがうかがえる。また、成果指標⑨の達成中学校の教員は、地域の人材の活用による充実感を得られていた。</p> <p>成果指標⑨の達成小学校の保護者は、教員への信頼やいじめ防止基本方針やコミュニティ・スクールへの理解がうかがえる。</p> <p>成果指標⑨の達成中学校の保護者は、地域への行事への参加をうながしており、学校で地域人材や素材を活用した教育活動が行われていると実感していた。</p>

《全体のまとめ》

成果指標の達成校における共通の特徴から、成果指標の達成には「児童生徒一人あたりに対する教員数の拡充が鍵になる可能性」、「地域コミュニティとそこでの社会関係資本の状況など、地域環境が重要な影響を与えている可能性」が考えられる。